

納期限 6月29日

印刷所 太陽堂

消える事故



ダイジエスト

可茂地区市町村

行政連絡会議が発足

議長に渡辺市長選ばれる

可茂地区市町村行政連絡会議が発足しました。これは美濃加茂市を初めとして木曽川周辺の加茂郡、可児郡の市町村がこの連絡会議の広域的な立場に立つて、行政と経済（産業）の発展など共通の課題をとり上げて予算を効率的に執行し、住民の福祉と利益の増大をはかるものとして組織されたものです。



議長に選ばれた 渡辺市長

いで経済が発展するにつれて、高度成長するにつれて、美濃加茂市中央公民館で、松野知事ら来賓多数と美濃加茂市、加茂郡、可児郡の各団体代表約三百人が出席して、可茂地区市町村行政連絡会議の設立総会が、役員として議長に渡辺市長を選出しました。このあと、可児市長とそれぞれ万が一の事態に備えて、午後二時、閉会しました。

美濃加茂市中央公民館で、松野知事ら来賓多数と美濃加茂市、加茂郡、可児郡の各団体代表約三百人が出席して、可茂地区市町村行政連絡会議の設立総会が、役員として議長に渡辺市長を選出しました。このあと、可児市長とそれぞれ万が一の事態に備えて、午後二時、閉会しました。



可茂地区市町村行政連絡会議設立総会

低開発地域工業開発の推進、水資源利用、農業構造改善、これに伴う交通対策、公園開発計画など、多くの諸問題が各市町村相互に関連しています。これら諸問題を各市町村単位で効果的に解決し、住民の福祉の要求におこたえする事は至難であり、予算を効果的に投資出来ません。そこで、これら、各市町村により連絡会議を作り、広域的な観点に立つて、各自自治体で即効的な効果的な投資計画を決め、予算を執行し、皆様の利益の増大をはかるものとして組織されたものです。

紺綬褒章受賞

佐合さんら三人



佐合さん 緒方さん 木下さん

公共施設の充実に尽くした三人が、紺綬褒章を受賞されました。

その三人は、佐合木材の社長、佐合茂治さん。日本工具の社長、緒方鑑さん。農業、木下藤吉さんの三人です。

この受賞の伝達式が去る15日市長室で、行なわれました。この三人、佐合さんは地元の火の見やぐらが、戦争で供出されたまま再建されないのを、鉄骨の留保（高さ12m）を寄付（約20万円相当）し、また、下米田小学校の視聴覚教材として、カメラや映写機などを贈られたもの。

緒方鑑さんは、加茂野町木野に、工場を新設したが、工場完成の祝賀をやめて、市の消防署の施設費にと10万円贈られたもの（この外にも市役所へ10万円寄付されている）

木下さんは、もと市役所に勤務されていたが、新庁舎の完成を記念して焼品費にと10万円贈られたもの。

進出工場完成を急ぐ

善工舎十八日完成式

誘致工場その後

昨年の九月十五日、美濃加茂市を中心とした中濃地域（二市五町村）が低開発地域工業開発地区に指定されて以来、本市に工場進出が活発化し、特に昨年の善工舎は限下初の六社の合資調印を行ない誘致に成功しました。

工場にスタート

善工舎時計株式会社

また、太田町新田地区に用地千五百坪を購入し、工場建設を急いでいた善工舎時計株式会社は、この完成式に、喜びの完成式が去る十八日新工場で盛大に行なわれました。

二期工事も完成

株式会社松屋

その後株式会社松屋（本社大井町）は既に昨年の暮から操業を開始し、パジャマ、ネグリジエなどの衣類品を製造し、月産一千万円以上の生産を続けています。向今年度に入り、二期工事として鉄骨二階建ての工場（延九二坪）を完成し、人員も三十人増員して順調に成績を上げ、当初予定の目標より上回る成績を続けています。



完成した善工舎時計株式会社

横顔



道づくりを重点に

協議会議員 山田 肇

来、教育委員・市議会議員・山之上農業協同組合員・市の体育協会会長・農協、終戦とともに補われ、近代化審議委員と多くの公職を歴任され、去る四月十六日に投票が行なわれたいという、県議員山田肇さんは、議員に初当選されました。和十一年、旧山之上村の村長に初当選されて以来、中絶として、怒りの道づくりを重点に、この全戸に有線放送をひき、事を始めたら必ず成る功をせよと人である。農協組合長の職にあつては、農村の文化的生活を向上のため、山之上地区



可茂地区市町村行政連絡会議行政図

来はこの中濃地域における特殊な工場として大きくその将来が期待されています。大同興業と提携、西川製作所、株式会社西川製作所（社長西川金一）は加茂野町木野に用地三万五千坪を買収し、工場七〇〇坪のほか事務所、住宅、倉庫など延一〇〇〇坪の建設に着手しました。同会社は昨年の契約当時より規模が大きく、製鋼と技術、資本提携し、資本金も三千万円から五千万円に増資し、九月から操業を開始する予定であります。

この西川製作所は高張力ボルトの製作が主であり、現在、美濃加茂工場新設のため、ドイツからボルト製造機を導入し、進出に万全を整えつつあります。輸出総代理店となる住友商事、丸紅飯田より全米、カナダ、ドイツ、オーストリア、ベルギーなど世界各國から発注が殺到し、また国内においては伊藤忠商事が総代理店となつて各所に配られています。

このように西川製作所は岐阜県下における有力工場となるべく期待されています。

新製品防火板に本職、二村化学工業株式会社、一方増設である二村化学工業株式会社（社長二村富久）は現工場のとなり千二百坪の用地を買収し、この第一工場の第一期工事として、木造スレート葺の第一工場（百五十坪）を完成、新製品の試作に余念がありません。が、近く操業を開始し従業員も大いに増員する予定です。

現在試作中である新製品防火板は防火、防水性に富んでいて、外壁として使用出来るのが特色です。この生産はまだ全国でも少ししか生産されておらず、現在大増産されている石炭ボルトと共にその将来が大きく期待されます。